

令和7年9月4日

資料3—1

兵庫県の水資源対策

—ひょうご水ビジョン等の推進—



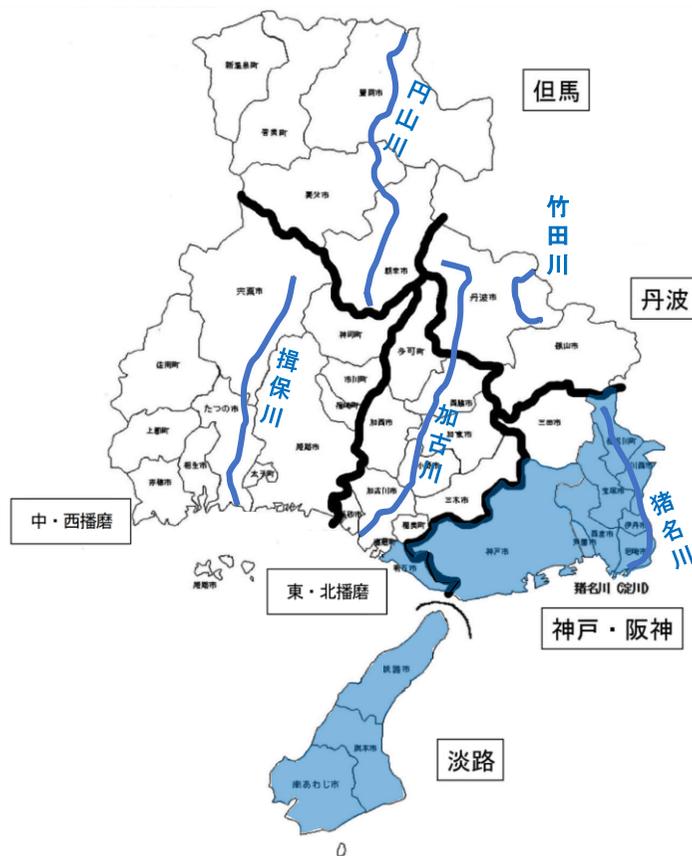
兵庫県

明石海峡大橋の「水の日」ブルーライトアップ

1 琵琶湖・淀川からの用水供給

神戸・阪神地域など人口集中地区の主要水源

- ・兵庫県南部は瀬戸内気候区に属し、年間を通じて降水量が少ない
- ・南東部や淡路島には大きな河川がなく、ため池が多い
- ・人口や産業が集中する神戸・阪神地域（約320万人）では、上水道の8割以上、工業用水の9割以上を淀川水系（淀川本川や淀川水系猪名川）に依存



淀川本川・淀川水系猪名川からの受水区域



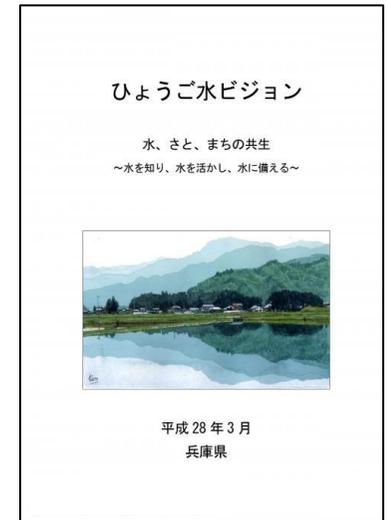
淀川本川からの受水区域（9市）

※阪神水道企業団パンフレットより引用

2 ひょうご水ビジョンの推進

(1) ひょうご水ビジョンの概要

- ・水循環基本計画（平成27年10月閣議決定）に基づく「流域水循環計画」として位置づけ
- ・兵庫の水が県土の自然、県民の生活、地域の文化をはぐくみながら美しく循環するための総合的な指針として策定
- ・水と共生する県民生活の構築を目指す



(2) 水ビジョンの基本方針

「水、さと、まちの共生 ~水を知り、水を活かし、水に備える~」を2030年度（目標年次）の目指すべき姿とし、5つの基本方針を掲げて各種取組を実施

基本方針	取組内容
① おいしい水をつくる	森林等の適正管理と保全による水源かん養、安定した水道供給の確保、兵庫のおいしい「食」生活の推進
② 水をもっと上手に使う	雨水・再生水・井水の利用推進、節水生活の普及、水のエネルギー利用の推進
③ 水へのおそれ（畏れ、恐れ）を知り備える	流域全体で取り組む治水対策等の推進、防災教育と情報提供の推進、濁水への備えの強化
④ 水の豊かさを守る、つくる	水辺環境の保全と創造、生態系の保全と回復、水循環全体の周知
⑤ 水の文化、伝統を育む	水文化の継承・創造、伝統産業の振興、水がつなぐ交流の推進

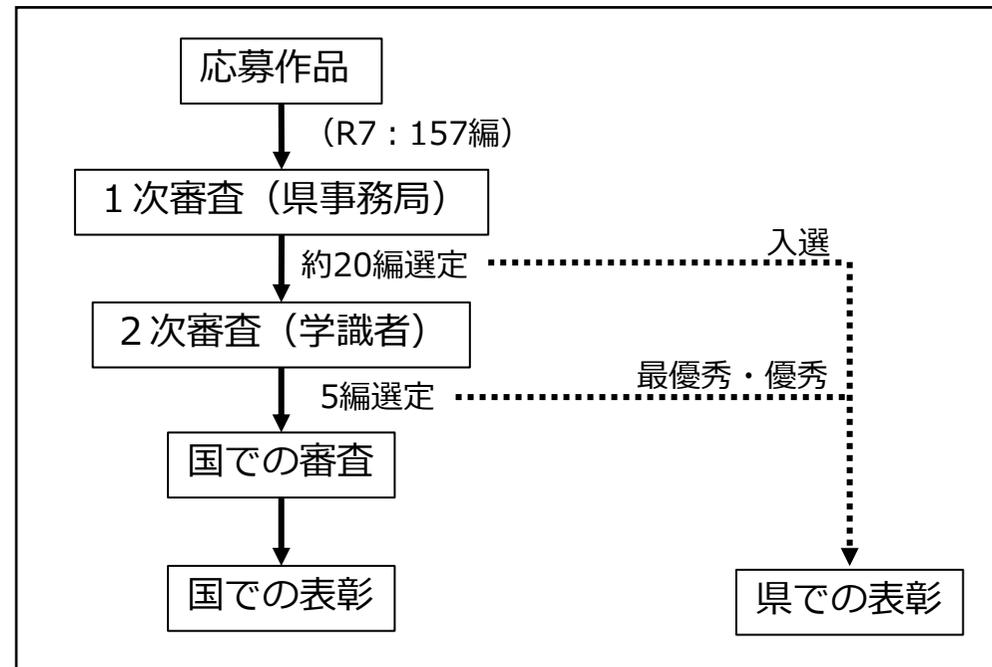
(3) 県民意識の醸成

① 中学生「水の作文」コンクール

- ・ 水への興味や関心、理解を高めるため、国土交通省と共催で次代を担う中学生を対象に作文コンクールを実施
(令和7年度実績：応募総数**157**編)
- ・ 兵庫県独自の「兵庫県中学生水の作文コンクール」を実施し、応募された作文から約**20**編を選定し表彰
(令和7年度：最優秀1編、優秀3編、入選**17**編)



水の作文コンクール作品募集ポスター



表彰作品選定フロー

② 「水の日(8月1日)」・「水の週間(8月1日～7日)」の広報活動

ア 県内主要施設のブルーライトアップ

(令和7年度実績：神戸市等6市町10施設)



神戸ハーバーランド大観覧車のブルーライトアップ



明石城のブルーライトアップ

イ 水資源の大切さの啓発

県内のイベントに出展するなどし、水に関するパネルの展示、各市町の水道水の試飲等を通じて水の重要性や美味しさ、安全性等をPR

～水循環と地球の水～

水循環って何だろう？
地球上の水は、海水や河川の水として常に同じ循環を繰り返しています。水が蒸発することで雲になり、やがて雨や雪になって再び地上に戻ります。それがしだいに集まって川となり、海に流れ込みます。このサイクルを「水循環」といいます。

使える水は意外と少ない？
地球上の水は約71%が海水です。私たちの潤いの河川、湖沼、地下水などは淡水ですが、これらは「地球上の水の約1%」しかありません。しかも、その多くは北極や南極の氷河や地下水として存在しています。河川や湖沼の水は、地球上の水の約0.001%しかありません。

いつでも使っている水はどこから？
飲む、食べる、洗う、流す。私たちは毎日の生活の様々な瞬間で水を利用しています。水資源の約70%は、河川や湖沼から取水された地表水、残りの30%は、川底の下や川に沿って存在する伏流水と地下水です。私たちは、自然の恵みである水資源を大切に、自然にやさしい水を使っています。

人工的な水循環
人間が使うことができる水資源を私たちの生活や産業で利用するためには、水資源を「人工的な水循環」によって循環させる必要があります。このように、人工的な水循環を構築していくことが重要です。

～日本の水事情～

日本の川と流域の特性
日本は気候や季節によって降水量に差があるものの、年間降水量は世界で多い国ですが、日本列島の地形は山脈がそびえ、険しい山脈から流れ下る川はその勾配が急で、短った後は短時間で海まで流れてしまします。そのため、河川を水資源として有効に活用するのは困難です。

人工的な水循環
人間が使うことができる水資源を私たちの生活や産業で利用するためには、水資源を「人工的な水循環」によって循環させる必要があります。このように、人工的な水循環を構築していくことが重要です。

展示パネルの例

【トピックス】 本年度の活動の様子

琵琶湖・淀川流域で啓発を実施

- ・ 尼崎市の万博用パーク&ライド駐車場で開催する「ひょうご楽市楽座」に8月2日に出展し、約300人が来店
- ・ 県、県内市町の災害用備蓄水を試飲する“水の飲み比べ体験”では、
「普段はあまり意識しないが、おいしかった」
「水道水の味がこんなに違うとは思わなかった」
「水の重要さを改めて認識した」 などの意見



イベント出展状況



飲み比べに使用した県・県内市町の災害用備蓄水
(左から三田市、尼崎市、兵庫県、加古川市、宝塚市)

(4) 広域的な水資源調整

① 広域的な水資源調整

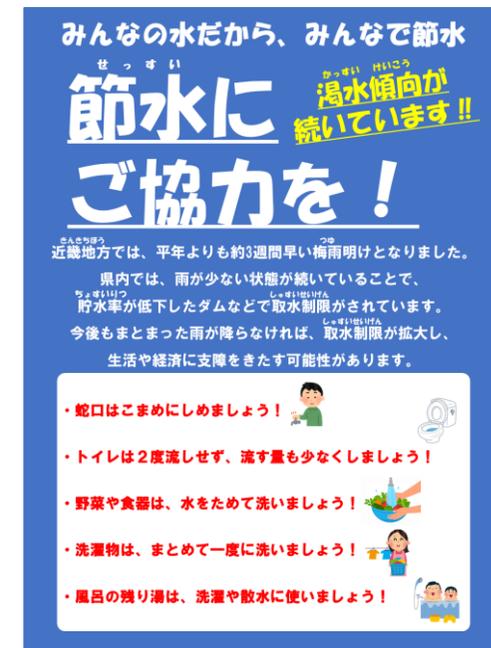
安定した水資源の確保や良質な水源の保全など、琵琶湖・淀川水系の広域的な水資源調整を実施

② 渇水対策

渇水により県民生活等に重大な被害が発生する恐れがある場合には、HPで情報発信や節水を呼びかけるとともに、「兵庫県渇水対策本部」を設置するなど、広域的な調整を実施



ひとくら
一庫ダムの渇水状況 (R6.2 川西市)
「水資源機構一庫ダム管理所」提供



節水啓発ポスター